

第1回 生活科研究部研修会

令和7年5月21日

会場 協同組合 浜松卸商センター アルラ

1 顧問校長挨拶

今週末に運動会を控える学校が多い。入学したばかりの1年生にとっては初めての運動会、2年生は2回目の運動会であり、楽しみにしている子が多いと思う。一方で、初めての行事を不安に思い、練習に参加できないような子供もいるのではないだろうか。不安を抱える子供には、保護者と相談をしながら寄り添ってほしい。子供にとっても教師にとっても、学校が「明日も行きたいな」と思えるような場所になってほしい。



本日は「低学年教育の充実」を図るために研修を進めていく。評価を行う上で、この評価でよいのか不安に感じたり、時には指導者同士の評価基準がずれてしまったりすることがある。今回の研修で指導と評価の一体化について学び、各学校の実践につなげてほしい。

2 講話「低学年教育の充実に向けて」

浜松市教育センター指導主事

小学校は0からのスタートではない。子供たちは、幼稚園や保育所、こども園で様々なことを経験してきている。よりよいスタートをきるためには、スタートカリキュラムが大切。本日は各校のスタートカリキュラムを参考にしながらよりよい指導につなげてほしい。また、生活科主任同士のつながりを大切にしてほしい。



本日のねらいは「モデレーション（評価の可能性を高めるために、複数の評価者が評価観を統一するために話し合うこと）を通して、子供の姿に基づく対話を行い、互いの評価観を磨くとともに、生活科における『目標と評価の一体化』に向けた推進役となることを目指す。」ことである。

事例① 1年「きれいにさいてね わたしのはな」

『あおとむらさきとピンクのはながさいたよ。おおきさは、パーよりちいさく、グーよりおおきかったよ。』というアサガオの観察記録を書いた児童に対してどのようなコメントをするだろうか。近年、コメントを書かない学校が増えてきたが、生活科こそ温かいコメントを入れてほしい。ただなんとなくコメントや丸を付けるのではなく、目標や評価規準を意識して、コメントを書き、児童と対話することが、次の気付きにつながっていく。

単元の評価規準から具体的な児童の姿と評価方法を設定する。今回の場合は、単元の評価規準が「アサガオの特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付いている。(知識・技能)」である。具体的な児童の姿としては「アサガオの花の様子について、色、数、大きさ、形など、気付いたことを書いたり発言したりしている。」「アサガオと自分の関わりについて、気付いたことを書いたり発言したりしている。」等が想定される。自分だったら、「他の花も同じ大きさだったかな？」とコメントを入れる。一つのアサガオの花に対してよく観察できている児童に対し、褒めるだけでなく、アサガオについてもっと調べたいと意欲をもてるような一言を添えるとよい。

事例② 2年「うごくうごく わたしのおもちゃ」

1年生を笑顔にするためにおもちゃをレベルアップさせようと取り組んだ学習である。小単元の評価規準は「友達と話し合ったりさまざまな遊び方を試したりしながら、自分が願うおもちゃの動きを予想し、みんながより楽しく遊べるようにおもちゃを改良している。(思考・判断・表現)」である。

モデレーションの対象は3人の児童。うちわの風で進むヨットを作り、まっすぐ進まなくて困っている児童A。コロコロレースでまっすぐ進まずに右に曲がってしまうことに困っている児童B。一人で黙々と作業し、まとあてのおもちゃを作っている児童C。

3人とも遊び方を試したり、おもちゃの動きを予想したりしながら試行錯誤している。

評価規準に照らして見取りをしていくことが大切である。

今回の研修では「モデレーションを通して、子供の姿に基づく対話を行い、互いの評価観を磨くとともに、生活科における『目標と指導と評価の一体化』に向けた推進役となること」を目指した。教師が2人以上いれば当然一人一人の評価観は異なる。だからこそ今回の研修のようにお互いの評価を比較し、今後の子供の学習改善に向けて必要な支援を検討してほしい。また、教師の指導改善につなげてほしい。互いの評価を磨くためのすり合わせが大切であると考える。